



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『わたしたちに必要な糧を

今日与えてください』

聖書(マタイ福音書6章11節)

牧師 河合裕志

昔から教会で大事にしている祈りに「主の祈り」というのがある。主イエスが教えてくれた祈りということ。短い6つの祈りから成りその4番目の祈りがこれ。普段教会ではこれを文語訳で唱えていてそれではこうなる。「われらの日用の糧かてをきょうもあたえたまえ」。

糧とは食糧のこと。元の言葉はパンなので必要なパン、日用のパンと訳して間違いないけれど糧でよいと思う。向うの人はパンが主食だろうけど私達の国ではお米の御飯が主食。糧としておけば両方を含むことができるというもの。

イエスが天の父(神)に向ってこう祈れと教えたということは人間にとって食糧がいかに必要なものであるかをよく認識していたということだろう。人間、食べ物がなければ生きて行けない。一日三度三度の食事にありつけるということは思えば大変に感謝なこと。これを深く味わって頂きたい。

それからイエスがわざわざこのような祈りをもってきているのには当時の食糧事情も反映しているかも。その頃一般大衆は貧しかった。食べて行くのがやっとだった。イエスの家もそんなところだったろう。イエスの父ヨセフと母マリアは少なくとも7人の子供達を養うのにきゅうきゅうとしてい

た。こうして育って来たイエスだからこんな祈りが出て来た。これは切実な祈りに違いない。

「今日」とある。これは今日一日生きて行く上で必要な糧を与えてください、ということ。なんとも慎ましい。控え目。明日もあさっても与えてくださいとは祈らないそこには明日はまた天の父が必要な糧を与えてくれるから心配はいらないよ、とのイエスの考え方があるよう。イエスは天父にゆだねてしまうのが得意。この点私達は不得意。そこで備蓄に走る。多少の備えが禁じられている訳ではないけれどあまり先々のことまで心配することはないよ、ということ。

「わたしたちに」とある。私だけに食糧があればいいということではない。他の人にも糧がなければ。これを拡大すれば世界70億の人々に、ということになるかも。これは拡大し過ぎ? 70億の人の口に必要なたべものをいれるとなるとこれは容易なことではない。しかし地球市民としてはこれは考えねば。国連が食糧の交通整理に当らねば。限られた食糧を分け合って行かないことには。私達の国は食べ過ぎでは? 主の祈りを覚えてほしいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

英語聖書を読む会：日曜日午前9時半

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時